令和8年度 災害拠点病院医療救護要員研修 ／ 総合討論

01

DMATが救う命の、その先にある命

—— 救命と、その先の暮らしを守る支援のリレー

登壇者

岡山赤十字病院 DMATコーディネーションチーム

齊藤 博則（さいとう ひろのり）

日時・会場

2026年10月25日（日） 15:45–16:05

西大寺緑花公園 百花プラザ 多目的ホール

岡山市東区 西大寺南1丁目

出典 —— 令和8年度 災害拠点病院医療救護要員研修 タイムスケジュール（岡山県, 2026／日時・会場 公式ページ参照）

総合討論の前提 —— 4部を貫く一本の軸

結論（3行のことば）

① DMATは「地震で死なせない」

② 関連死は「その後の暮らしで死なせない」

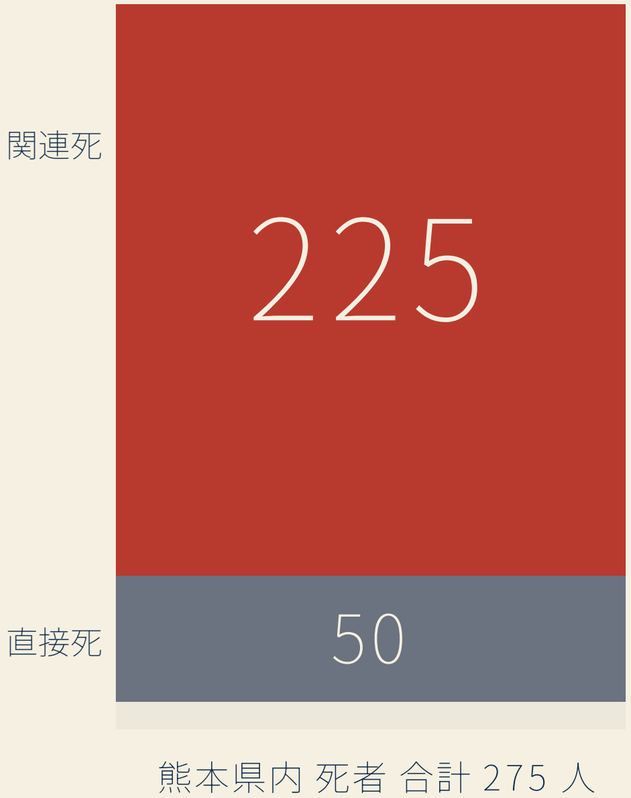
③ 救命 と 生活支援 は 別制度・別職種・別時間軸。
発災 直後から 並行 ・ 連携 する 仕組み が 課題。

出典 —— 本研修 総合討論の立場表明（岡山赤十字病院 齊藤博則, 2026.10.25）

キースライド ① ／ 2016年熊本地震 —— 関連死 の 大きさ

熊本県内 死者 275 ＝ 直接死 50 ＋ 関連死 225

関連死 225／275人 ≒ 約 82 % ／ 熊本県公表



熊本県内 死者 合計 275 人

関連死 の中身（分析 218 人）

内閣府事例集概要 が 死亡者 の 年代 と 死亡時期 を 218 人 で分析。

約 78 %

が 70 歳以上

（169/218 人）

約 81 %

が 3か月以内 に 死亡

（177/218 人）

関連死 は 高齢・早期 に 偏在 —— 医療 と 生活支援 の 境界 に 生まれる。

出典 —— 熊本県「2016年熊本地震」公表値 ｜ 内閣府「災害関連死事例集 概要」p2-p3

キースライド ② ／ 2026 年 7/28 —— 内閣府 10月5日報 の 主要 数値

令和8年熊本地震 の 主要 数値

内閣府「令和8年熊本地震 被害状況等」2026.10.5 12:00 時点 —— 全国 の 主要 数値

① 死者（全国）

38 人

うち 熊本県 38 人
重傷 43 ・ 軽傷 333（合計 414 人）

「別途」負傷悪化・疾病 による 死亡 可能性
2 人 —— 関連死 として 未確定

② 住家被害（全国）

69,604 棟

全壊 2,408 ／ 半壊 7,802
一部破損 59,394
うち 熊本県 69,594 棟

③ 避難者（10/5 11:30 時点）

1,288 人

28 か所 の 避難所 に 避難 中

死者・住家・避難者 —— 三つ の 主要 数値 を 用いる

体制情報・ライフライン・医療体制 の 数字 は 資料性 に 偏り が ある ため、本スライド では 省略 —— 必要 時 一次 資料 を 直接 参照

出典 —— 内閣府「令和8年熊本地震 被害状況等」 p2（死者・住家・避難者数）2026.10.5 12:00 時点

発災の季節と複合リスク ―― 2016年4月発災 と どう 違っていたか

今回は「夏」だった。

2016年 は 4 月 ―― 今回 は 7 月末 ―― 季節 が 被害 の 性格 を 変え た。

猛暑 × 断水 × 車中泊 × 長期化

猛暑対策

スポットクーラー約 300 台

入間基地 → 熊本空港 ―― 空自 C-2 で輸送

避難の縮小

避難所 28 か所（10/5 11:30）

最大 506 か所・9,931 人 ―― 縮小 しても 支援 は 続く。

季節 は ―― 暮らし側 の リスク そのもの を 直接 押し上げ た。

出典 ―― 内閣府報「令和8年熊本地震 被害状況等」 2026.10.5 p.2（避難者・最大）／p.45（クーラー）／熊本地方気象台 8月気温概況

キースライド ③ ／ 2016年熊本地震 —— 関連死 の 時期 偏在

時期 を 待たず —— 1 週間 以内 53 ／ 1 か月 累計 124 ／3 か月 累計 177

内閣府事例集概要 の 218 人 母集団 —— 死亡者 の 発災 から 死亡 まで の 経過 時間 分布

1 週間 以内	1 か月 以内 累計	3 か月 以内 累計
53	124	177
／218 人 母集団	／218 人 母集団	／218 人 母集団

同じ 218 人 母集団 内 の 時点 別 累計 —— 数値 は 包含 関係

早期 から 並列 する 支援

救命医療（急性）

生活・保健・福祉支援

救命 と 生活支援 は 最初から 並列 —— 機能 を 落とす 期間 を つくら ない。
※ この 右図 は 時間軸・期間・割合 を 表す ものではなく、並行 する 必要性 を 概念 として 示す 図

関連死 は 発災直後 から 生じる —— 待機 の 期間 を 作らない 仕組み が 必要。

出典 —— 内閣府「災害関連死事例集 概要」p3（53/124/177）

支援 の リレー —— 役割 の 整理（開始・終了 時期 を 示す 図 で はない）

誰 一人を 落とさない —— 重複 する 役割 の 重さ。

各 職種 カード は 同一 始点 から 並列 —— 時間軸・期間 表示 で は ない

DMAT・その他救護班

救命医療（初期 対応）

JMAT　日赤　NGO も 同領域 —— 医療 支援 移行

救命医療・急性期 万一 の 指揮系統 整備

DPAT

災害 精神 医療

避難者・支援者 の こころ

精神科 医療・心理 支援

DWAT

災害 福祉 支援

高齢者・障害者 の 暮らし

要 配慮 者 の 生活 支援

看護

災害支援ナース

避難所・在宅 の 看取り期

医療 側 と 生活 側 を つなぐ

保健師・JDA-DAT

保健所・自治体 保健

栄養・感染症・母子

感染症 対策・母子 支援

役割 を 並列 で 並べる —— 空白 の 期間 は 誰 にも 託せない

出典 —— DMAT 概要「https://dmat.jihs.go.jp」／岡山 DWAT・DPAT —— 岡山県 HP「https://www.pref.okayama.jp/」

第 1 部

初動期

― 情報共有 と 指揮系統 を 整える

焦点

情報共有 と 指揮系統 を 整える

現場の 情報 ―― 拠点病院 の 状況 ――
県 保健医療 調整 本部 ―― 災害医療 本部
これら を つなぐ 構造 を 初動 に 用意 する。

DMAT コーディネータ ―― 複数 組織 の 接続 点 に 配置

※ DMAT 自身 の 終了 時期 は 本スライド では 扱わない（資料上の 数値 を そのまま 使わない）

第 1 部 の 問い

誰 が・何を・どこまで を

初動 で 決めて 共有 できるか。

司令塔 なき 初動 ―― その まま 急性期以降 に 持ち越さ れる。

出典 ―― 日本 DMAT 概要 ／ 本研修「総合討論」枠組み（岡山赤十字病院 齊藤）

第 2 部

急性期

― 救命医療 と 生活支援 を 並列 で 引継ぎ ―― 機能 を 落とす 期間 を 作らない

焦点

引継ぎ の 重複 する 期間

救命医療 → 避難所医療 ―― 機能 の 重なる 期間 に 空白 が 生まれ やすい。

八代港 で 8/5 14:00 から 防衛省 PFI 船「はくおう II」による 医療提供（内閣府報 p.36）

第 2 部 の 問い

医療 と 生活支援 を

何日 重ね て 引き継ぐか。

並列 で引継ぎ ―― 機能 の 空白 を 生まない 期間設計。

「終わり」と「始まり」を一つの設計に ―― 並列 する 期間 が 機能 を 保つ。

出典 ―― 内閣府報「令和8年熊本地震 被害状況等」 p.36（はくおう II）／ 日本赤十字社「https://www.jrc.or.jp/」

第 3 部

亜急性期

― 生活・保健・福祉支援 を 途切れ させ ない

関連死 は 発災直後 から 生じる。時期 を 待たず 早期 から 生活支援 を 重ねる。

焦点

生活・保健・福祉支援 を 途切れ させ ない

要配慮者 ―― 高齢・持病・障害 → 車中泊・持病悪化・低栄養 ―― これら が 一斉 に 生じる。

岡山 から 確認 できる 派遣

DWAT・DPAT・災害支援ナース

看護協会・県精神医療センター 等 と 連携

救命 と 生活支援 は 同時並行 ―― 片方 を 待つ 構造 に しない。

出典 ―― 岡山県 HP「チームおかやま」派遣経緯 ／ 厚労省第55報 2026.8.20

第 4 部

中長期

― 避難所 → 仮設 → 在宅 —— 職種横断・生活再建

焦点

生活不活発病・栄養・口腔

・こころ —— 4 視点

支援 の 可視性 は 下がる —— 関連死 の リスク は 上がる。

岡山「チームおかやま」の業務移行

第 1〜8 陣 —— 避難所運営

第 9 陣 以降 —— 住家被害認定調査

応急仮設・判定士・建設職員 も 派遣

「見 える 救助」 が 減る —— 暮らし側 の 活動 が 本当の 続き を 担う。

出典 —— 岡山県 防災危機管理課 ／ 岡山県 HP「対口支援 チームおかやま」 公式ページ参照

避難所・避難生活学会 の 目安 —— T・K・B を 目標 として 整える

発災 48 時間 以内 に 整える 3 つ の もの

※ 学会 の 目標 —— 医学的閾値 ではない

T

トイレ

排泄・水 —— 公衆衛生

トイレ カー・簡易トイレ・手指消毒 など

K

キッチン

温かい食事 —— 栄養

温かい食事 —— 食欲・低栄養 対策

B

ベッド

生活不活発病 —— 休養

寝床 —— 床 に 直 接 座ら ない 環境

TKB48 —— 暮らし側 の 仕組み を 48h以内 に

出典 —— 避難所・避難生活学会（DSRL）「TKB48」 —— 目標・医学 的閾値 で はない

本研修「総合討論」—— 5 つの 提言（提案／目標）

「渡し方」を 仕組み に

① 退院・避難所退去時 の 「生活支援アセスメント」 を 病院 が 起点 に

暮らし へ戻る 前提を、医療側 で 整える。

② DMAT 縮小時 の 保健・福祉 への 引継ぎ書 を 標準化

引継ぎ の 重複 する 期間 に 要配慮者 が 落ちる —— 制度 で 止める。

③ 要配慮者リスト を 県境 を 越えて 共有

氏名・所在・支援内容 の 共有 を 全国・県境 で 標準実装 に。

④ TKB48 を 災害拠点病院 の 備蓄・訓練 項目 に

トイレ・温かい食事・寝床 —— 48 h 以内 の 訓練 を 仕組み に。

⑤ 関連死 の 検証 体制 —— 本研修 の ゴール

数値目標 を 仕組み に —— 関連死ゼロ は 達成保証 でなく 検証 の 目標。

急性期 の「終わり方」—— つなぎ方 を 仕組み に

出典 —— 本研修「総合討論」提言（岡山赤十字病院 齊藤博則, 2026.10.25）